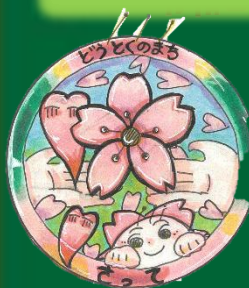


令和7年度幸手市SDGs道徳プロジェクト



作文

幸手市教育委員会と幸手市道徳教育推進協議会議では、SDGs11「住み続けられるまちづくり」を推進するため、心温まる、住みよいまちづくりを目指しています。

今年度のテーマは、「伝えよう感謝の気持ち」です。日頃感じている感謝の気持ちを、この機会に伝えていただきたい、と思い作文を募集しました。たくさんの「ありがとう」のメッセージに、幸手市のみなさんの心が温かくなることを願っています。



「おれうてを夫日、をさりるお
ねかごい(いみちも雨言んリスせぼ
がらざのますまのまの(にダクわく
いもいもすもとい日たわの(にが
まよまあ。うにもいリナルな
すろすリてげちでかなが(い
。し。かく二ぼ風すとま(て
く二とれうくの。うちド(も

「題^{たい}ありがとうス^すクル^{くる}が^がード^{ード}ソ^ソレ^レク^クセン^{セン}」

最優秀賞

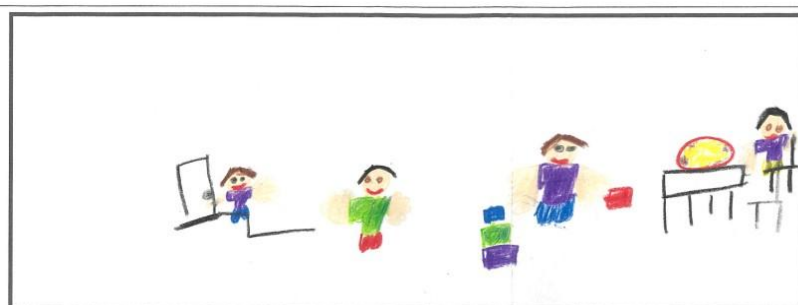
行幸小学校二年

成田 怜矢

最優秀賞

行幸小学校三年

眞中慶伍



【題】「大すきなぼくのあやちゃん」

ヤ かがおをがあくは い る ぼん そー ああ
 ん い と ば お さ ち の さん て の く が お ん 人 ち ち ぼ
 の っ う あ う し 大 い の く を が 仕 ば ざ の 人 人 に
 力 か ち え く 人 こ 高 作 れ け 学 事 あ い お 人 人 に
 に ぼ 大 人 し は う に る ま 人 校 で ち て 母 は か は
 な く す 人 し い 物 お じ す か か い ず さ い 大
 る も き い て ぼ フ で い 人 ら そ 人 ン ぼ ま す
 よ お だ つ く く も す し が お で 帰 が は み く す
 ば よ も れ の え く ち ば ま し お た の な
 あ あ ま こ 顔 お て ー あ て い 母 い も お お
 ち リ す と で ば ぼ ズ ち て く 時 さ な う ば ば

最優秀賞

上高野小学校五年

荒井良音



【題】「お母さんのおかげで家族みんな幸せ」

こ い わ て 後 妹 も け と た カ ル て 母 手 れ た 気 る 伝
 であ ら な お は 家 た 大 た か し で く さん 止 時 にお いう えた
 家 族 が 母 は 庭 の 切 く は 応 体 ん 困 は す か かつ た し 心
 み と 良 さん の こ で せ は プ し そ 自 毎 相 た せ だ 母 は
 な う 。 っ の と 習 話 五 て ず 思 く 日 談 こ い わ さん
 幸 せ お と こ 面 助 こ の 妹 け し の お たい がん ます し お
 だ さん 思 にく け と い の 妹 れ た 絵 持 さん 飯 ぐ 病 ち 笑 さん
 よ の て 生 家 い ます 女 今 属 こ わ 全 作 みる 見え 家族 せ
 お い ま 族 で が 今 今 今 今 今 今 今 今 今 今 今 今 今 今 今 今
 が ま れ 思 今 今 今 今 今 今 今 今 今 今 今 今 今 今 今 今

最優秀賞

幸手中学校一年

田中 彩美

【題】【当たり前前の温かさ、私の力に】

25 20 10

私にできる場所です。学校では世界で一番ほっと
あ、たり、必ず家族の温かい空気がありま
家にある日、テストの結果が悪く、誰にも顔
見られたくない気持ちで帰宅した時、父は
も聞かずに、おつかれと言ってくれて、母の
ように冗談を言ったり笑わせたり、お母さん
は黙って私の好きな夕飯を作ってくれて、そ
さ、見ながらお菓子も分けてくれた。その
時、私は言葉より大切なもの、家族の優し
と、感じました。家族は私の失敗を責めるの
ではなく、ただ私が、私の失敗を責めるの
に支えてくれた。私が、私の失敗を責めるの
私にと、静かなエール、毎日の優しさ、
な、口で、家族が私に、毎日の優しさ、
生活、お父さん、お母さん、姉、弟、
く、お父さん、お母さん、姉、弟、
フも、お父さん、お母さん、姉、弟、
の、お父さん、お母さん、姉、弟、
家族を支え、温かい存在に、お父さん、
ります、温かい存在に、お父さん、

最優秀賞

幸手桜高校二年

小林 華果

【題】【ごめんねの代わりに言う言葉】

25 23 20 10

私は、周りの人になにかをしてもらって、「ありがとう」ではなく、「ごめんね」という言葉が出てしまう。「ごめんね」という言葉は、謝罪ではなく、「さしてしまふ」という申し訳なきが勝つ。ごめんね、反社会的に口に出るのだ。
そんな私を愛してくれたり、一人ではない。友達や先生など、沢山の人の
のまえがあり、私は少しずつ変わることができた。
私が作業をしていると、友達が「私もやるよ」と、手伝ってくれた。作業が
終わると、私は友達に「手伝ってくれてありがとう」と言わなかった。手伝わ
せて「ごめんね」と言ってしまった。その時、友達に「私がやりたくて、たこと
だから謝るようなことはないよ」と言ってくれた。その友達の声に、心は
一言により、私は一歩前進したような気がした。また、ある日先生が
こんなことを言った。「ごめんねは場合によってはマイナスな印象を持た
せてしまふ。ありがとうはお互いに良い気持ちになる。ごめんねは
よりありがたさを認識しよう。私はこの言葉に強く胸を打たれた。
私はそれを以降、「ごめんね」といわず、「ありがとう」と言おうと決めた。
ように、た、積極的になり、「ありがとう」と言うようになった。一つ気づいた
ことがあった。それは、「ごめんね」という言葉は相手だけでなく、自分も
マイナスな気持ちにならしてしまうことだ。相手に気遣いをしてしま
うに、自分自身も少し落ち込んだ気持ちにならなうから。
以上のことから、私は、「ありがとう」という言葉は、大切である。それ
からこそ、私は自分を愛してくれて周りの人々に、「ありがとう」と
言いたい。私はまた謝る癖が抜けき、これから、今でも「ごめんね
と言ってしまうか、ありがとう」と言うことを意識して、過ごしたいと思
う。最後に、私を愛してくれて友達、先生、そしていつも共に過ごしてくれ
る皆へ、「ありがとう」。